

第 18 回テーマ

## 必要な情報と必要でない情報を見極める

不動産が少し動き始めていると聞いた。周知の通り、不動産や住宅市場が動き始めると景気が上向くと言われている。それは個人消費の中で「住宅」は最も高額な消費であり、大きなお金が動くという意味からだ。但し、地域的な問題もあるので抜本的な景気対策ではないと思うし一時的なものかも知れないので、これからの動向に注目である。

話は変わるが、今、偶然にもクライアント先で大型投資案件について議論している。もちろんこういう景況感の中で投資するのはリスクも大きい。ただ、反対の見方をすればチャンスでもある。「必要性」という面では老朽化した設備をリニューアルするという案件であるため、理由はそれだけでも十分なのであるが、直接営業に大きな影響を与えるというものではない。営業計画はもちろん返済計画やその他の財務戦略なども考慮しつつ、最も効果的な戦略を採用しなければならない。

これは個人でも同じ事が言える。判断基準は色々あるが「必要性」「有効性」などの基軸はもちろん事、将来にわたる「可能性（期待）」という部分でもベネフィットがあるのか？という事は重要だ。決断を下すにはさらに材料が必要だ、という人もいるが、調べれば調べるほどに慎重になって結局のところ動かず...というケースもある。個々の価値判断になるが、今の日本はまさに「知りすぎて動けなくなっている」という状況であろう。

IT 技術の発展により、消費者も数多くの情報に触れ、その情報により行動する事が当たり前になってきた。ただ、情報過多により、以前よりも「動けない・動かない」という状態が続いているのも実態だ。もっと情報量の多さを精査し、極めて自分に有用な信用ある情報源を見極める目を磨くのも必要だろう。また、企業でも、たくさんの情報をテーブルに並べる前に、しっかりと優先順位の基準を明確に持って必要な情報を事前に考え、検討していく方が効率的であろう。

必要な情報とそうでない情報を見極めるには、最初に目的を持って収集する事ではなかろうか？精度を上げようと思えば、それだけ時間とコストがかかる。そのバランスも考慮しながら、戦略策定に活かしてもらいたいものである。